

東洋紡株式会社 2020 年度決算説明会 質疑応答要旨

日時:2021 年 5 月 11 日(火) 10:30~11:30

場所:ウェブ会議形式

説明者:代表取締役社長 竹内 郁夫

本資料中の将来の業績見通し等に関する記述は、現時点における情報に基づいており、当社として保証するものではありません。実際の業績等は、さまざまな要因により異なる可能性があります。

Q: 2021 年度、SRF はどのくらい伸びる見通しか？

A: 21 年度、新ライン(3号機)がフル稼働する予定であり、20 年度に対し約 20%増収の見通し。

Q: 工業フィルムにおいて、原料高に対して価格転嫁をすることは難しいか？

A: 工業用フィルムの場合、原燃料とのリンクはなく、価格転嫁は難しいが、過度に高騰した場合にはお願いする。

Q: 2020 年度、モビリティの営業利益が、3Q では営業赤字だったが、4Q に営業黒字に転換した理由は？ エアバッグの原糸調達コストが下がった効果が出ているのか？

A: エンプラの収益が4Q に改善したことが大きい。エアバッグの原糸調達コストが安くなったためではない。

Q: アジポニトリル不足により、エアバッグ用原糸調達はどうなるのか？

A: アジポニトリル関係の原料調達は、厳しい状況。2021 年度、6~7月が一番厳しい時期になると予想している。

Q: モビリティの黒字化への時間軸について、ご説明いただきたい。

A: タイで建設中の原糸工場が立ち上がり、自社で原糸製造できる段階でコスト的に正常化する予定であり、2023 年以降に黒字化する見通し。

Q: 品質の管理体制の改善策についてご説明いただきたい。

A: データインテグリティのシステム強化を図る。検査の自動化は、導入可能な工程では検討していく。併せて、意識改革、クオリティカルチャーの醸成も進める。

※品質保証マネジメント体制を強化するため、3ディフェンスライン体制とした。

Q: エンプラの UL 認証問題において、21 年度の業績影響、および補償の状況を教えてください。

A: エンプラ事業において、UL 認証を取得している製品は売上高の約1割だが、お客さまと相談をさ

せていただく中で、UL 認証が無くても継続できる製品もあり、業績影響は 1 割もないと見ている。補償については、個々のお客さまと相談をさせていただいている途中であり、具体的な数字は控えさせていただきたい。最終製品のリコールにはなっていない。

Q: 火災事故が続いているが、安全対策・老朽化対策を含めると、高額の設備投資が長く続くのではないか？

A: 防災総点検を実施し、必要な設備投資は順次進めている。2024 年度までに 80%完了予定である。

Q: 20 年度下期の営業利益は 160 億円を超えている。21 年度の営業利益予想 270 億円は、少し固めではないか？

A: 21 年度は、“コスモシャイン SRF”、“コスモピール”の増産効果が期待できる。また、PCR 検査関連製品の需要は、新型コロナウイルス感染症の患者数は減っても、すぐには落ちてこないと見ている。しかし、原燃料価格高騰の影響が大きいことが予想されるため、270 億円の見通しとした。

Q: 今後、3 年、5 年先に、成長を牽引する事業についてご説明いただきたい。

A: 旧帝人フィルムとのシナジー効果によるセラコン用離型フィルムの成長、高耐熱性ポリイミドフィルム“ゼノマックス”、神経再生誘導チューブ“ナーブリッジ”、骨再生誘導材“ボナーク”、海水淡水化や排水処理用途に展開できる中空糸型正浸透膜(FO 膜)などが期待できる。

以上